

四国学院大学 演劇コース

GUIDEBOOK

高校生のためのガイドブック

SHIKOKU GAKUIN UNIVERSITY THEATER COURSE
GUIDEBOOK FOR HIGH SCHOOL STUDENTS

©Don Carroll

演劇コースの

カリキュラム



Performance

Scholar



演劇コースだけの特別奨学金

SARP!



舞台芸術公演って何？



四国学院大学



カリキュラム

Curriculum

中四国初の「本格派演劇コース」として本学の演劇コースは2011年度にスタートしました。リベラル・アーツにおける演劇教育、プロの演出家を招いた演劇公演、国際共同企画など、全国的にみても類をみない取り組みをしてきました。

2020年度からは演劇コースに特化した返済不要の奨学金制度も新設しました。

また、今年度からは舞台芸術を職業としたい人向けの専門性の高いマイナーのコースを新設しました。

地域の優位性を最大限に活かした、少人数の深く学べる授業と

ノーススタジオが本学の演劇コースにはあります。

自分の夢を叶えるために、世界に羽ばたくために、ぜひ、本学キャンパスへ来てください。

四国学院大学准教授・
ノーススタジオ芸術監督
西村和宏



プロの俳優や
ダンサーを
目指す

Major

身体表現と舞台芸術メジャー

プロの俳優やダンサーになりたい人向けのメジャーです。毎日の基礎トレーニングから、プロの演出家や振付家を招いた先鋭的な授業まで様々なカリキュラムを用意。卒業後に俳優やダンサーとして、即戦力として活躍できる力を身につけます。



身体表現と舞台芸術



Q. 演劇をやったことないけど大丈夫ですか？

A. 大学から演劇を始める学生も多くいます。「演技基礎」や「ボディ・トレーニング&エクスプレッション」、「ヴォイス・トレーニング」など基礎から演劇やダンスを学べる授業も多く、クラスも少人数制なので未経験でも安心です。



スタッフ
ワークを
学びたい！

Minor

舞台技術・公演マイナー

将来、美術家、照明家、音響家、舞台監督としてスタッフワークを仕事にしたい人向けのコースです。プロから基礎的な技術を学んだあと、大学内施設ノーススタジオで行われる公演や地域のプロジェクトに関わり実践の中で学びます。



Q. 卒業後の進路は
どんなところがありますか？

A. 照明家、音響家、舞台美術家などプロの現場で活躍している人が多くいます。ほかに演劇コースで学んだコミュニケーション能力や表現力を活かして学校教員になったり、一般企業に就職したりしています。



舞台技術・公演

プロデューサー
になる！

Minor

アーツ・マネジメントマイナー

演劇の制作者や、公共ホール職員、地域と演劇を結びつける仕事につきたい人向けのコースです。学内公演の制作や、公共ホール等でのインターンを経験し、実践的な知識と技術を学びます。

Q. アーツ・マネジメントって
何ですか？

A. 芸術・文化と社会をつなぐための業務や方法論のことです。具体的には公演の企画や運営、広報、資金調達、普及活動、人材育成など業務は多岐に渡ります。このマイナーではプロデューサーや公共ホールで働ける力を身につけます。



アーツ・マネジメント



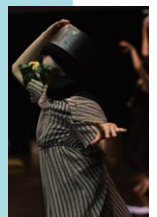
Minor

演劇ワークショップ実践マイナー

演劇を
活かした仕事に
就きたい！

近年、日本の教育現場でもコミュニケーション能力の育成や他者理解のために演劇ワークショップが行われるようになり

ました。こうしたワークショップを開発し運用できるファシリテーターを養成するコースです。



Q. どんな人が
このマイナーを選択するの？

A. 将来、ファシリテーターとして演劇ワークショップをやりたい人や教員、介護士、保育士を目指している他学部の学生も選択しています。演劇のノウハウを使った教育活動や社会貢献したい人が学んでいます。



演劇ワークショップ実践

贅沢すぎる講師陣によるトップレベルの実践的教育!

岸田國土戯曲賞を受賞している講師は7名



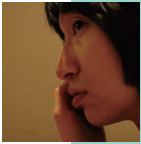
鴻上尚史

作家、演出家、四国学院大学客員教授
1958年愛媛県出身。早稲田大学法学部出身。1981年に劇団「第三舞台」を結成。以降、作・演出を手がける。現在はプロデュースユニットKOKAMI@network。2008年に若手俳優を集め旗揚げた「虚構の劇団」での作・演出が中心。これまでに紀伊國屋演劇賞、岸田國土戯曲賞、戯曲集「グローブ・ジャングル」で第61回読売文学賞戯曲賞(2010年)を受賞。舞台公演の他にも、エッセイスト、ラジオパーソナリティ、映画監督、小説家、脚本家などとして幅広く活動。



岩松了

劇作家、演出家、俳優、四国学院大学客員教授
1952年生まれ、長崎県出身。東京外国語大学ロシア語学科中退。「自由劇場」「劇団東京乾電池」を経て、「鈍牛倶楽部」所属。劇作家、演出家、映画監督、俳優として、舞台以外にもテレビ、映画などでマルチに活躍。1989年「蒲団と達磨」で岸田國土戯曲賞受賞。1994年「鳩を飼う姉妹」「こわれゆく男」で第28回紀伊國屋演劇個人賞受賞。1998年に、「東京日和」(監督:竹仲直人)で第21回日本アカデミー賞優秀脚本賞を受賞し、戯曲「テレビ・デイズ」で読売文学賞を受賞。



糸井幸之介

劇作家、演出家、音楽家、多摩美術大学講師



岩城保

舞台照明家、埼玉県立芸術総合高校非常勤講師



岡田利規

演劇作家、小説家、チュルフィッシュ主宰



カミケタクヤ

美術家



上村聡史

演出家



キタノタダユキ

サウンド・エンジニア、PAオペレーター、選曲家



木ノ下裕一

木ノ下歌舞伎主宰、ドラマトルック



工藤千夏

劇作家、演出家、うさぎ庵主宰、青森県立保健大学非常勤講師



小池竹見

演出家、脚本家、双数姉妹主宰



小松陽佳留

スタイリスト、服飾デザイナー



菅原直樹

劇作家、演出家、俳優、介護福祉士、「老いと演劇」OiBokkeShi主宰



杉山 至

舞台美術家、芸術文化観光専門職大学准教授、桜美林大学非常勤講師、女子美術大学非常勤講師、舞台美術研究工房・六尺堂ディレクター



柴 幸男

劇作家、演出家、ままごと主宰、多摩美術大学講師



白神ももこ

振付家、演出家、ダンサー、ダンスパフォーマンス的グループ「モモンガ・コンプレックス」主宰



関美能留

演出家、三条会主宰



多田淳之介

演出家、東京デスロック主宰



田野邦彦

演出家、ワークショップ・デザイナー



中島諒人

演出家、鳥の劇場主宰



夏目雅也

舞台監督、技術監督



畑澤聖悟

劇作家、演出家、渡辺源四郎商店主宰、青森県立青森中央高等学校教諭、弘前大学教育学部非常勤講師



林 成彦

演出家、「高校演劇サミット」プロデューサー、NPO法人パブリック理事



深田晃司

映画監督



藤田貴大

演劇作家、マームとジプシー主宰



ヘイニ・ヌカリ

ダンス・ボイスアーティスト、ボイストレーナー



松井周

劇作家、演出家、俳優、劇団サンプル主宰



三浦大輔

脚本家、演出家、映画監督、劇団ポツドル主宰



明神 慈

劇作家、演出家、ボカリン記憶倉主宰、着物着付け所作指導師



森 新太郎

演出家、演劇集団円所属



安田雅弘

劇団 山の手事情社主宰、演出家



山内健司

俳優、兵庫県立芸術文化観光専門職大学講師



わたなべなおこ

劇団あなごーわーくす主宰、NPO法人PAVLIC理事、演出家、ワークショップファシリテーター

専任教員



橋本一仁

教授、社会学部長、リエゾン・センター長、国際オファス・ディレクター、学校法人四国学院理事

1946年香川県生。四国学院大学英文学卒業、上智大学大学院(英米文学)修了。徳島大学教員を経て、1977年四国学院大学着任。英語・英米演劇や国際関係科目を担当。学生と演劇公演活動も行う。1983~84年ロンドン大学RHC演劇学科客員研究員。2003年以後は、文化芸術政策やアート・マネジメント関連科目も担当。この間「かがわ文化芸術祭」や「さぬき映画祭」実行委員長等を務め、文化芸術による地域創生の実践に参加している。



西村和宏

准教授、演出家、サラボール主宰、青年団演出部、ノトスタジオ芸術監督

1973年生、兵庫県出身。1999年より川村毅氏が主宰する劇団第三エロチカで俳優として活動。2002年にサラボールを立ち上げ、以降すべての演出を手掛ける。2005年より平田オリザ氏が主宰する青年団の演出部に所属。2011年より四国学院大学に勤務。これを機に創作の拠点を香川県に移す。瀬戸内国際芸術祭参加や小豆島の島民と「二十四の瞳」を創作するなど市民劇の上演や高校生・市民向けの演劇ワークショップを多数行っている。



阪本麻都

准教授、ダンス教育者、振付家

キエフ国立バレエ学校でバレエを学んだ後、京都ダンスアカデミー、NY等でコンテンポラリー・ダンスを学ぶ。2005年には、ケルン音楽大学ダンス科にてダンス教育を学びその後、ドイツに在住しポップム市立劇場でダンサーを、デュッセルドルフのタンツハウスNRWでプロダンサー向けトレーナーを務める。帰国後は四国学院大学演劇コースにて役者の為の身体トレーニングや振付を教えると共に、地域の子どもたちに向けたワークショップも多数実施している。



仙石桂子

准教授、修士(教育学)、劇団オムツかぶれ、即興演劇シーソーズ主宰

1981年生まれ。2006年より一橋大学学生相談室職員。2010年よりタイのシラチャ日本人学校国語科専任教諭を経て、2012年より現職。専門は演劇教育、インプロ(即興演劇)。一橋大学勤務時には、学生に向けてコミュニケーションスキルアップセミナーを行う。国立市ましかどホール、練馬区関中学校、千葉市社会福祉研修センター、志仁会などでインプロを使ったワークショップを実践。シラチャ日本人学校では、国語科の授業の中にインプロを取り入れた授業を実践した。著書に「ドラマ教育入門」(図書文化社、共著)。



教えて先輩！ SARP 授業、舞台芸術公演、って何するの？

『義経記REMASTER』

2021年5月19日(水)～23日(日)

今回は木ノ下歌舞伎主宰の木ノ下裕一氏を監督・補綴に迎えて本学准教授の西村和宏が演出、阪本麻都が振付を担当し、源義経や弁慶たちが活躍する『義経記』の舞台化に挑戦しました。



四国学院大学演劇コースでは最先端の演劇やダンスの授業を受けることができます。中でも一番の目玉が、プロの演出家・振付家が1ヶ月程、学内に滞在し、学生たちと作品を創って上演するという授業、「四国学院大学アーティスト・イン・レジデンス・プログラム＝通称SARP」。

SARP 20回記念公演『義経記REMASTER』が実際にどのように行われたのか、先輩たちに聞いてみました！

1 Audition まずは、オーディション！

SARPでは稽古に先駆けて、学内オーディションを行います。キャスト希望の学生は演技、スタッフ希望の学生は面談で参加が決まります。

Q. オーディションでは何をやるの？

A. 演出家や作品によって求められるものが違うのでオーディション内容は毎回変わります。今回は、テキストを使った朗読や「平家物語」をテーマに一人芝居を作ったり、音楽に合わせて走る・転ぶ・跳ぶなどの動きをやったりしました。その人が持つ身体性やキャラクターが『義経記』という作風に合うかどうか問われました。

オーディションが3日間あって、ドキドキするし、上手く自分を表現できず落ち込んだりもしたけど、みんなの特技も見れたし、盛りだくさんの楽しいオーディションでした！



ゆうり (義経家来・鞍馬) 愛媛県 松山東高等学校出身

2 Research オーディション通過！稽古前の「勉強会」もみっちり！



オーディションに通過し、ほとんどのもの束の間、すぐに「勉強会」が始まりました。木ノ下先生の『義経記』にまつわる歌舞伎や能のレクチャーから始まり、今回の大きなテーマとなる「道行(みちゆき)」についてのワークショップも行いました。グループに別れて、源義経にまつわる話を調べて大プレゼン大会も実施、みんなで知識を深め、作品理解に努めました。

古典の世界では、目的地に着くまでの道程を地名や風景だけを積み込んで表現する「道行」という方法があることを初めて知りました。勉強会では、普通寺から大学までの「道行」をみんなで作って発表しました。いつも道なるのにいろんな景色や物語があって、発見がいっぱいありました。

全体での勉強会他に自分でも大化の改新～鎌倉時代を調べました。地図を見ながら、僕が演じる源義経が見た景色に想いを馳せたりして、役作りの時間にもなりました。

しゅんせい (源義経) 香川県 丸亀高等学校出身

ゆうな (語り役) 広島県 舟入高等学校出身

3 Rehearsal いよいよ、稽古開始！

『義経記』を原作としたオリジナル作品なので、稽古しながら台本が足されていきました。毎日、台本が増えるので、セリフを覚えて、動きを覚えて、キャストは大忙し。台本作成は木ノ下先生が主に担当されましたが、それを助けるべく補綴(はてつ)助手の学生が大活躍しました。

Q. どんな稽古をしますか？

A. SARPでは1ヶ月程度の稽古期間を設けています。まずは台本を座って読む「読み合わせ」。意味の分からない言葉やセリフのニュアンスを演出家や共演者と共有します。その後は、「立ち稽古」。最初は台本をもったまま、立って動き、セリフを覚える台本を離し、シーンを繰り返して、体に落とし込んでいきます。今回は能の「すり足」を取り入れた基礎トレーニングも毎日行いました。演出家や作品によって稽古方法が違うことを知れるのもSARPの魅力の一つです。



高校の部活とは全然違って、プロの現場って感じがして、一つ一つが新鮮でした。毎日、段々と芝居が仕上がっていくのが面白くて、先輩たちの演技も間近で見ることができて勉強になりました。

くわちゃん (義経家来・扇尾役) 大阪府 大谷高等学校出身

木ノ下さんが台本を作成するにあたって、補綴助手として時代考証をしたり、義経たちが通った道や原作に出てくる名所を調べたりしました。登場人物がいた山の本や動物まで調べたりして、細部までこだわることになりました。あまりに大学の図書館に通ったので、図書館司書の方と仲良くしました(笑)

はるか (補綴助手) 福岡県 びびき高等学校出身

4 Technical Rehearsal 照明や音響、舞台美術が加わった稽古が始まります。

大学内には本格的な劇場、ノースタジオがあります。そこで、舞台美術を組み、照明機材や音響を仕込んで本番に近い形で長期間にわたり稽古できるのはSARPの大きな魅力です。スタッフをメインに担うのは学生たちです。それにサポートする形でアドバイザーとしてプロのスタッフが関わります。

Q. 舞台スタッフをやりたい！初めてでもできますか？

A. はい、できます。今回スタッフとして参加した学生もほとんどが入学後照明や音響、舞台美術を始めました。また、スタッフ業を専門的に学ぶノースタジオという学生団体もあり、卒業後、照明家、美術家、プロデューサーとして活躍したり、映像会社やイベント会社に就職するなど、様々な分野で頑張っています。

衣装に和のテイストの装飾を施したり、着物の端切れを使って結製(ゆいけ)などのアイテムも作ったり、作業量も多く大変でしたが、舞台上で衣装を着たキャスト陣はとてもキラキラしていて、頑張った良かったと思いました。

高校生のときに、ダンスの発表会で照明が綺麗に演出されて感動しました。そのときの照明が今回のアドバイザーの西山さんで、大学で直接教えてもらえるのは夢にも思いませんでした。プランも本格的なオーディションも初めての挑戦で大変でしたが、やりがいと達成感を感じました。

ふくか (照明担当) 香川県 高松西高等学校出身

5 Performance 晴れて本番！

1ヶ月にわたる稽古を経て、いよいよ本番です。SARPは授業の発表公演でありながら有料公演で行います。全力で2時間の上演を駆け抜ける学生たちの姿は、観る人たちに多くの感動を与え、千秋楽ではトリプルのカーテンコールをいただきました。



僕は演出家を志望していて、演出助手という仕事をしました。スケジュール調整や演出の記録など稽古や本番で必要なことをします。広い視野でプロレベルの稽古に立ち会うことができたので多くのことを学ぶことができました。

かつしょう (演出助手) 鹿児島県 開陽高等学校出身

史実や文献を調べれば調べるほど、「この人たちは確かに生きていたんだ」と実感させられ、実在する人物を演じることに誇りを感じていました。義経の没落を描く作品なので、精神的にも追い込まれることが多かったのですが、だからこそ支えてくれる仲間たちの有り難みも感じられ、舞台上では義経として彼らと共に走りることができました。言葉にできない不安や孤独、苦痛を、誰しもが抱えているこの時代ですが、そんな人たちに「頑張れ」と励ますことはできないまでも、「辛いよな」と溜め息を吐き合うことはできる。お客様に共感してもらえるような『義経記』になったのではないかと思います。

すぎたくん (源義経) 山口県 西京高等学校出身

卒業生からのメッセージ

卒業後は、西村先生主宰の劇団サラダボールに所属し、舞台や地元企業の映像作品に出演しています。今回は、現役生に混じって、走ったり、踊ったり、とても楽しい時間でした。首都圏に行かなくてもできること、ここでしかできないことはいっぱいあると思います。みなさんも入学したらぜひ、いろんなことにチャレンジしてください。

高橋なつみ (劇団サラダボール) (源義経) 福島県 いわき総合高等学校出身

学生時代に木ノ下さん監督のSARP vol.16『平家物語REMASTER』に平知盛役で出演しました。ノースタジオだけでなく、愛媛県にある百年続く芝居小屋、内子座でも公演でき、貴重な経験ができました。現在所属している劇団民藝の「どん底-1947-東京-」に出演が決まっていたので今回は参加できませんでした。今でも、SARPでの経験は自分の大きな支えになっています。演劇コースに入ったら、ぜひSARPに関わって学生時代からプロの現場をたくさん体験してください！

橋本潤 (劇団民藝 演技部 研修生) 香川県 三本松高等学校出身

過去のSARP作品

SARP vol.17
『mizugawa/madogiwa』
作・演出：藤田貴大
客演：川崎ゆり子
2019年9月14日(土)、15日(日)

マムとジプシー主宰・演劇作家の藤田貴大が作・演出を担当。水際・窓際に関する学生たちのエピソードをインタビュー形式で集めて一つの時間を紡ぎ、切なくて深いオリジナル作品を制作しました。プロの俳優として活躍されている川崎ゆり子氏とも共演し、貴重な経験となりました。

演出家からのメッセージ

あの夏の終わりにみんなに会えて、否応なしに出会った。あのころが見えなくてどうしようもなく苦しかったこと、けれども開眼に生きたこと。夜になると山々のシルエットが、深い紺色を背景に浮かびあがるあの環境にて、静かに観察するように製作した時間のこと。ぼくは忘れられない、これらもすべて影響されて。あらためて、あの場にいたみんな。ありがとう。

SARP vol.18
『星の祭に吹く風』
作・演出：小池竹見
脚本協力：TOHOKU Roots Project
2020年10月3日(土)～6日(火)

池竹見氏を招き、『風の又三郎』をモチーフにした作品を上演しました。舞台美術のデザインも学生が担当し、天井から吊るした紙テープで風を表現するなど工夫を凝らした美しいセットを演出家と共同で制作しました。

演出家からのメッセージ

『風の又三郎』を題材に描いた、都市から山に振り回される小さな町のお話でした。「この施設(作物・生産物)を作れば、町はにぎわいを取り戻しますよ」と甘く誘って、何十年かに一度、全国に吹き渡る大きな風は、一時のにぎわいを生んだ後には多くのものを奪っていきます。これから先、風は何度も吹くでしょう。その時、奪われてはいけませんか。「ミツ」が見え続ける目を持ってほしい。学生のみならず、あれから、ちゃんとミスしてませんか？どれだけ準備を重ねても「今日」になってはじめて見える。聞こえる何かがあります。見えにくいふりをしてやり過ぎず、ミスも恐れず、受け入れて変化してほしいです。

SARP vol.19
『S高原から』
作：平田オリザ
演出：山内健司
2020年12月17日(木)～20日(日)

主に俳優として活動されている、山内健司氏(青年団)を演出に迎え、俳優視点の演出で平田オリザ氏の代表作『S高原から』に挑みました。学生たちは、山内氏によるアリスム演技の言葉について考え、その価値を学ぶワークショップを体験しながら俳優としてのスキルを磨きました。

演出家からのメッセージ

俳優をメインでおこなっている者がSARPを受け持つことは稀かと思いますが、今回は、私にしか埋めることのできないピースを差し出したいと考えました。それは「うまくなりた」という気持ち。最近ネットで大量に見られるアメリカのドラマ、あるいは世界を席巻する韓国映画などで若い俳優がすみずみに至るまで、とにかくうまい。映像と演劇という違いを両国の教育機関では、演じる基本において区別していないように。あのアジアやヨーロッパの若手たちが勝負しているっていい、遊んでいてほしいと願っています。日々の創作はただただ歯がゆくて、情けないものはかりと向き合っていないかもしれません。夢中になって取り組んで、ふと目をあげた時「うまくなりた」という景色がみえればいいと思います。

四国学院大学十周年
『カガクするココロ』
作・演出：平田オリザ
2021年1月27日(水)～31日(日)

平田オリザ氏の初演出で、プロの俳優4人と共演をしました。積み重ねられた細やかな稽古の上に成立するリアリティある演技・群像は観客に大きな驚きを与えました。また、江原河野劇場(兵庫県豊岡市)でのツアー公演も実施し、プロの俳優・スタッフを目指すに当たり大きな自信に繋がりました。

演出家からのメッセージ

正味の稽古時間は短かったですが、非常に集中して作業が進められたと感じています。四国学院大学演劇コースの十年間の集大成として、クオリティの高い舞台に仕上がったと自負しています。学生たちは、淡々と繰り返される稽古によく耐えて、自分なりの表現を見つけられました。また、プレ稽古、オーディションなどから数えたら半年以上にもわたるプロジェクトの中で、プロフェッショナルの仕事の進め方に触れていただけたのではないかと思います。

演劇コースだけの特別奨学金!!

Special Scholarship

返済不要!
授業料
全額or半額!

舞台芸術を目指す学生を支援するため、返済不要の奨学金制度を

2020年度より始めました。

最大で授業料の全額が4年間支給されます。

金銭的理由で進学を、夢をあきらめる前に、ぜひ、この奨学金制度にチャレンジしてください!!

特別奨学金支給内容



スカラーA

授業料の全額に相当する
奨学金を入学時から4年間支給

スカラーB

授業料の半額に相当する
奨学金を入学時から4年間支給

*スカラーA・B併せて5名程度。

スカラーに合格して

特別奨学金スカラーAに選ばれ学費の心配がなくなり、より学業に専念する事が出来ています。アルバイトも減らして、その時間を稽古や芸術作品の鑑賞などに使っています。二次選考の実技と面接は、少し勇気があるかもしれませんが、充実した大学生活を送る為にもぜひ挑戦してみてください。



すぎたくん

山口県/西京高等学校出身

お問い合わせ先

四国学院大学 入試課

Tel: 0120-459-433

E-mail: info@sg-u.ac.jp



奨学金の詳細と
申込方法はこちらから

求める学生像

- ① 本学を第一志望とする者
- ② 本学の学生として、建学の精神をにない模範的な学生生活を送ると期待できる者
- ③ 自立心と共に舞台芸術(演劇、ダンス、アートマネジメントなど)を意欲的に学ぶ強い意思を継続できる者
- ④ 芸術、文化、地域コミュニティに強い関心を持ち、創作活動に積極的に挑戦する意欲を有する者
- ⑤ スカラーを対象とする授業や公演に必ず参加出来る者

選考内容

一次選考:書類審査

[申込締切日]

2021年10月15日(金) 当日消印有効

*審査結果および二次選考詳細を20日(水)までに郵送にてお知らせいたします。

二次選考:実技と面接

[開催日程]

2021年10月23日(土)・24日(日)のいずれか

[選考会場] 四国学院大学ノスタジオ

[選考結果] 1週間以内に郵送にてお知らせします。

新設 マグノリア学寮

Living Learning Commune

異なる学部・学年の仲間たちとの共同生活を通して、協調性や問題解決能力、コミュニケーション能力を育みます。学びを支える活

発な創造性と豊かな想像力を存分に伸ばせる環境と
なっています。



マグノリア学寮

演劇コースの学生も
多く入寮しています!

稽古の後も、大学内に寮があるので安心! 帰りの電車の時間を気にせず、稽古に集中できるようになりました!



宮地さん

高知県/高知工業高等学校出身



月額:15,000円

個室/水道光熱

Wi-Fi込み

Here!

緑豊かな
キャンパス内にある
マグノリア学寮!
教室も図書館も
食堂もすぐそこ!!

[文学部] 文学/哲学/歴史学/地理学/英語/平和学/学校教育/科学教育

[社会福祉学部] 社会福祉学/心理学/カウンセリング/地域社会と福祉実践/精神保健と福祉/子ども福祉/スクールソーシャルワーク

[社会学部] 社会学/メディア&サブカルチャー研究/観光学/身体表現と舞台芸術/舞台技術・公演/アーツ・マネジメント/演劇ワークショップ実践/国際文化マネジメント/情報加工学/バースボール科学/健康・スポーツ科学



四国学院大学

20^{Major}+4^{Minor}

〒765-8505 香川県善通寺市文京町三丁目2番1号

Tel: 0877-62-2111(代表) E-mail: info@sg-u.ac.jp https://www.sg-u.ac.jp/

☎ [入試課] 0120-459-433



大学HP